



芸術鑑賞



6月9日(木)、3年ぶりとなる芸術鑑賞を開催しました。今年は東京演劇集団・風をお迎えし、「Touch～孤独から愛へ」を上演していただきました。

この演劇は、アメリカの北フィラデルフィアを舞台に、あるアパートの一室に暮らす2人の孤児の兄弟、フィリップとトリートを中心に物語が始まります。貧しい生活を送る2人の前にある日、謎の紳士ハロルドが現れ、彼らを「元気づけてあげよう」と手を差し伸べます。ハロルドに次第に心を開いていく弟フィリップに対し、これまでの経験から人との触れ合いを恐れ、拒絶する兄トリート。この3人の出会いをきっかけに、それぞれが新

たな一歩を踏み出すことにつながっていくという話になっています。

プロの演劇を鑑賞した生徒からは登場人物の微妙な心情の動きが、声だけではなく表情や立ち振る舞いによって表現され、3人の関係性の変化がよく伝わってきたという声もあり、劇団員の皆様の演技力に驚き、感動していた様子でした。

演劇の最後には、生徒会長の佐野 颯栄さん(HR33)がお礼の言葉を述べ、副会長の白数 美月さん(HR34)が花束を贈呈しました。また、劇団の皆様からも、劇団員のサイン色紙を記念にプレゼントしていただきました。

講演終了後は、希望生徒が集まり、劇団の方々と舞台の解体作業を手伝いながら、交流を行いました。参加した生徒たちは、舞台のセットの作り方や演劇を構成するノウハウについて劇団の方々に積極的に質問をし、今回の演劇をどのように作り上げていたのか、興味津々の様子で話を聞いていました。現在生徒たちは学校祭での発表に向けて各クラスで取組を始めています。今回の芸術鑑賞を参考にしながら、文化祭でのクラス発表をより良いものにしてほしいと思います。

東京演劇集団・風の皆様、素晴らしい演劇をありがとうございました。

サイエンスフェスタ

6月12日(日)、京都大学で行われたみやこサイエンスフェスタに計4名の生徒が参加しました。このフェスタは、府立高校9校の生徒がそれぞれ取り組んできたプロジェクトについて発表し合い、さらなる研究の発展や様々な世代の人たちと交流の輪を広げることを目的としており、毎年参加しています。本学舎からは「丹後地域のタンポポの分布について」「林内環境におけるチマキザザの成長の違い」というテーマで、多くの高校生や有識者の前で堂々と発表しました。また、他の府立高校の生徒の発表を聴き、普段とは異なる刺激を受け取った様子でした。このフェスタの経験をもとに、さらに研究を深めてほしいと思います。



進路 HR

各学年で進路にかかわる HR を行いました。

○1年生「科目・コース選択説明」

高校に入学してまだ3か月でしたが、普通科は来年度選択する科目、建築科は「匠」、「学」コースの説明を受ける中で自分の具体的な進路について考える最初の機会となりました。また、2年後に変更が予定される大学入学共通テストについての話もありました。

○2年生「進路シートの作成」

それぞれの生徒が自分の希望する進路と現状を比較し、どのような手立てでその目標に近づいていくのかを見つめなおし、振り返りや展望を行いました。

○3年生「分野別説明会」

分野ごとの説明や進路指導部の先生によるアドバイスをもとに、自分の希望進路実現に向けた準備や取組をより明確にできた様子でした。



総合的な探究の時間「Safari」

「総合的な探究の時間」が今年も本格的に始動しています。今年度からその名称をスワヒリ語で「航海」を意味する「Safari」へと変更し、1年生は週に1時間、2年生は週に2時間、それぞれ探究活動を行っています。

1年生は、自分自身がどのようなことに興味があるのか、自分の将来を考えたり、それを文章やプレゼンで他者へ表現する取組を通して、これからの社会で必要となる課題対応能力やコミュニケーション能力を磨いています。

2年生は、決められた内容を学ぶのではなく、それぞれが興味・関心を持つ内容について独自にテーマを設定し、担当教員と相談しながら、研究を行っています。先日のゼミ内報告会においても、同じようなテ

マを設定している生徒同士で、研究をより専門的に行うための意見交換を行い、新たな研究の指針を定めることができました。

今年度も昨年度に引き続き、地域や社会とつながり、学校の外にも目を向けた探究を進めていってほしいと思います。

【2年生の今年度のテーマの一部】

- テーブルクロス引きの成功条件
- ヘビの住む場所と気候条件
- 成人年齢の引き下げは社会にどんな影響を与えるか
- 湊かなえ作品に見る周りの環境が人に与える影響
- 丹後の人が使う「だ」の年齢による使用率 など



人権学習講演会

6月3日（金）、人権学習講演会として、丹後緑風高校網野学舎の安達卓能先生に、講演をしていただきました。安達先生は、目がほとんど見えないながらも高校の数学科教員として現場で活躍されています。自身の病気についてやこれまでの苦悩、人生の分岐点などさまざまお話をしていただきました。

安達先生の講演を聴き、生徒の中には自分の考え方が大きく変わったという声もありました。安達先生ありがとうございました。

「自身の障害をハンディではなく、自分を輝かせるアピールポイントだとおっしゃった安達先生がすごくかっこよかったです。ほかの人からは悲観的に捉えられてしまうところも、自分の考え次第では、自分の武器になるんだということを学ぶことができました。」

河邊 和佳 (HR21・江陽中)

各部活動の活躍

☆ヨット部

第33回近畿高等学校ヨット選手権大会

女子ILCA6クラス

3位 中村 和代 (HR32・宮津中)

※インターハイ出場 (3年ぶり)

☆陸上競技部

第75回京都府高等学校陸上競技対校選手権大会

男子砲丸投 3位 松田 祥吾 (HR25・宮津中)

男子やり投 5位 松本 樹楽 (HR25・橋立中)

女子走幅跳 4位 大江 菜々美 (HR33・江陽中)



☆写真部

第46回全国高等学校総合文化祭東京大会

写真部門 出品 中村 凧沙 (HR23・江陽中)

☆書道部

第46回全国高等学校総合文化祭東京大会

書道部門 出品 橋根 琉伊 (HR34・江陽中)

書道部門 出品 室澤 亜紗 (HR22・栗田中)

☆ボート部

第72回近畿高等学校ボート選手権大会

女子舵手つきクォドルプル

優勝 宮前 千洋 (HR31・宮津中)

前尾 明里 (HR24・宮津中)

西村 まどか (HR33・加悦中)

岡段 守花 (HR34・峰山中)

竹原 李花 (HR35・橋立中)

※昨年に引き続き本種目連覇

(京都府女子では史上初)

OB・OGが教育実習にきました

3名の卒業生が教育実習生として本学舎に帰ってきました。校名は宮津高校から宮津天橋高校に変わりましたが、在籍当時と変わらない校舎の姿に懐かしさを感じる一方、自分たちのときから変化した教育活動や学校の雰囲気には驚いている様子でした。また教員として宮津天橋高校に帰ってきてくれる日を楽しみにしています。

・「自分がいた頃とは違う校名、校歌、制服になりましたが、生徒たちの勉強する姿、部活動をする姿を見て、かつて自分が学び育ったお互いに支え合い高め合える宮津高校の良き伝統がこの宮津天橋高校にも受け継がれていると感じました。高校時代は、一瞬で終わります。さまざまなことに挑戦して多くの経験をしてほしいと思います。」(廣瀬 翔)

・「総合的な探究の時間で自分で見つけた課題や研究、壮大なプロジェクトに向き合っている姿が本当に印象的で、私もたくさんの刺激をもらいました。この実習期間を経て、自身の学びや経験を伝える教師という職業は本当に素敵だなと感じました。」

(中嶋 純花)

・「教壇で話す一言一言が今後の勉強の理解に、受験に、さらにその先の生活につながることを実感し、責任を感じる一方でやりがいも感じました。高校生には高校生活を満喫しつつ卒業後に自分が何をしたいのかを考える準備時間に充ててほしいと思います。」(三川 創)



PTA 交通安全指導

5月27日（金）、PTA 役員の皆様と合同で朝の交通安全指導を行いました。

生徒たちが安全に学校に登校できるよう、校門前をはじめ、地域の複数の箇所まで登校の様子を見守っていただきました。

本学舎のPTAは昨年度、全国の20団体が選ばれた「優良PTA」の一つとして文部科学大臣から表彰されました。地域・保護者の方々に支えられながら、引き続き教育活動を行ってきたいと思います。

